（別紙の2）

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、正面玄関の見える場所に掲載している。また各ユニットスローガンも併せて掲載している。ユニットスローガンについてはユニット入り口にも貼ってあり勤務時に唱和している。	法人理念、事業所スローガン、各ユニットスローガンを玄関正面に掲示し支援の方針を明確に示している。合わせてユニットスローガンを各ユニット入り口に掲示し出勤時に唱和し共有と実践に繋げている。また、月1回発行されるお便り「ひだまり通信」にも掲載し家族にもお知らせしている。職員の中に理念、スローガンにそぐわない様な言動等が仮にあった場合には管理者が個人指導を行うようにしている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	若穂福祉祭りへ事業所の紹介として（模造紙一枚写真付き）で参加させていただいた。他地区の行事や、地域のお茶のみサロンに参加させていただいている。保育園交流は今年度2回園児さんに来訪していただき交流した。	自治会費を納め、回覧板も回して頂き参加できる行事には参加し、地域の一員として活動している。ホームの敬老会には区長より案内をいただき、地域の方のホームーの来訪もあり交流している。また、毎年恒例の地区のお祭りのお神輿の来訪も利用者の楽しみの一つとなっている。更に、保育園児の来訪も年2回定期的に行われ、園児とのふれあいを楽しんでいる。合わせて中学生の職場体験の受け入れも積極的に展開する予定である。月1回紙芝居、歌、手遊び、ハンドベル等のボランティアの来訪があり利用者も楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お茶のみサロン時、一緒にレクリエーションに参加させていただき交流をしていただいた。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ケ月に一回開催をしている。会議では活動報告や事故及びヒヤリハットなども報告させていただいており、今後の改善に向けてご指摘や助言もいただいている。	2ヶ月に1回、家族代表、区長、民生児童委員、地域包括支援センター職員、市高齢者活躍支援課職員、ホーム職員の出席で開催している。利用者状況報告、行事計画・行事報告、事故報告、ヒヤリハット報告、意見交換等を行いサービスの向上に役立てている。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営推進会議の場において、協力体制やサービス向上、地域への貢献について意見交換をおこなっている。	住民自治協議会との連携を深めている。福祉担当者の来訪もあり利用者とのふれあいの時間を持っている。あんしん(介護)相談員の来訪も月1回あり、利用者と傾聴中心に交流し口頭での報告があり支援に役立てている。介護認定更新調査は調査員が来訪しホームで行い、殆どの家族が立ち会われ調査員と話をされており、日頃の様子についてはホーム職員が話している。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議などにおいて身体拘束等の研修をおこない、認知症ケアの理解を深めケアの実施に繋げている。また、玄関の施錠をおこなう事は、家族に了解をいただいている。	拘束を必要とする利用者はなく拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックには特に気配りをしきめ細かく研修会を行い、見直しをし、徹底を図っている。ホームは車の交通の激しい通りに面しており、玄関は安全確保のため施錠している。利用者の所在確認はお茶と食事の時に行い、職員は必ず1名ホールにいるようにしている。転倒危惧のある利用者がおり、家族と相談しセンサーマットを使用したり、人感センサーを使用する場合がある。身体拘束委員会は毎月ユニット毎に行い、年2回身体拘束の研修会を行い意識を高め拘束のないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	全体会議の場において、拘束内容の読み合わせをおこなっている。また日頃から、職員同士が意見を交換できる環境をつくっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々に学習に努めている。学ぶ機会を作り活用し支援できるようにしていきたい。管理者が見かけた際は、その都度指導している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとり、丁寧に説明している。重度化や看取りや料金、医療連携などについては、詳しく説明し納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には来訪時何でも言っていただける雰囲気作りに努めている。面会時は最近のご様子を説明。また玄関の入り口に意見箱を設置してあり、自由に意見を投函していただける場を提供している。	殆どの利用者は意思表示の出来る状況であるが、若干目の方は難しい状況でジェスチャーを交えながら要望を把握するよう努めている。家族の来訪は平均すると月1回位の状況で、来訪の際には日々の状況を細かく話している。敬老会の際には多くの家族の来訪があり、市からの表彰や食事会、ボランティアの出し物等で楽しいひと時を過ごしている。ホーム便り「ひだまり通信」を毎月発行し担当者の一言コメントに合わせ、行事等日々の状況をお知らせし喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や全体会議などで意見を聞くような配慮をしている。出勤時は挨拶だけでなく、一言会話をし身心の様子もうかがえるよう努めている。飲み会などの開催をし交流を深めている。	月1回全体会議を行い、事故報告、ヒヤリハット報告、各種研修、業務全体等について話し合いを行い支援の向上に繋げている。ユニット会議は2ヶ月に1回開きカンファレンス中心に実施しケアの共有に努めている。人事考課制度があり半年に1回行動目標を立て自己評価の後、事務長と管理者による個人面談が行われスキルアップに繋げている。また、職員間のコミュニケーションに気配りし、管理者よりひと声かけることに心掛け、懇親会等でモラールアップも図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も適宜に現場に顔を出し、職員の様子や勤務状況も把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画をたて、外部研修への参加の機会を提案している。また研修報告を全体会議などで報告し、資料などの提供をおこなって情報の共有をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	若穂地区の包括支援センターが主体となり、施設系の会議をおこない、各施設の現状や問題解決に向けて意見交換をおこなっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況の把握やどのような対応が出来るかどうか話し合いを重ねて信頼関係の構築に努めている。また、入所前には生活歴の記入をご家族様にお願いし、スタッフが把握するようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との話し合いの中で、ご家族様の思いや状況の確認をしより良い支援に繋がるよう努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況を確認し、改善に向けた支援の提案、必要なサービスの改善に繋がるようしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の思いや不安など日々の生活の中で把握し、人生の先輩として尊敬の念を持ち接している。。また、制服を私服にすることでご利用者様とスタッフという区別をせず、家族のようなつながりでいられるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子や気づいた様子を報告し、お互いに相談し、情報を共有しながら、良い支援がおこなえるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限などをせず、知人や友人をいつでも受け入れる体制を作り、関係性が以前のように保たれるよう環境つくりに努めている。	友人や知人などの決まった方の来訪があり、家族から許可を頂き報告もしている。携帯電話をお持ちの方がおられ、家族と連絡を取り合っている。また、家族と馴染みの美容院に出掛ける方もいる。お孫さんが面会に来られると笑顔でゲームなどを楽しまれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がより良くなれるような場の提供や、何かあったときは双方の支援をし、改善できるよう原因を追究しスタッフ同士共有しながら再発防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業者に住替えをされた場合はアセスメントやケアプランを詳しく作成し情報の共有をしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当を中心に、日々の関わりの中で、希望をお聞きし、ユニット会議等において、職員間で情報が共有できるようにしている。	殆どの利用者が意思表示の出来る状況であり、おやつ、食事、衣類等、いくつかの提案をし意向に沿えるよう取り組んでいる。1対1で話をする時間を大事にし「何がしたいか」「行きたいところ」「体調について」等お話しするよう心掛けている。日々の気づいた言動等は家族からお聞きした情報も合わせパソコンの介護記録に纏め、出勤時や必要に応じ確認し支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族様から、生活歴の情報の記入をいただいたりたり、日頃何気ない会話の中でお話しを聞いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定で健康状態を把握しています。また、ワイズマンでの記録でも、一日の過ごし方やご様子を知る事ができている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者やご家族様からの要望等をお聞きし、介護計画書に反映させ作成している。	職員は1～2名の利用者を担当し居室管理、誕生日会の計画等を行っている。日々の申し送り時に気づいたことをなんでもノートに列記し、担当者を中心に随時モニタリングを行い、計画作成担当者がプラン作成を行っている。家族の希望は入居時と面会時に伺い、プランの中に反映させている。基本的に6ヶ月での見直しを行い状態が安定していれば1年で見直しをしている。状況に変化が見られた時には随時の見直しを行い、状態に則したプランに変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ワイズマンにて個別に記録している。 職員は随時、重要事項などは、申し送りに記録し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に応じて、「外出したい・・」など出来る限り対応し、利用者が満足していただけるように努力している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区に配布される、市報の中の配布物や運営推進会議により、地域の情報を収集している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望により主治医を決めさせていただいている。	利用契約時に医療機関について希望をお聞きしている。入居前からのかかりつけ医利用の方が三分の一おり、月1回家族が同行し受診し、状況はユニットリーダーが医師宛ての手紙を作成しお渡ししている。他の三分の二の利用者はホーム協力医の月2回の往診で対応しオンコール対応も可能となっている。常駐看護師がおり、日々の健康管理に合わせ医師との連携を取り万全な医療体制を整えている。歯科については必要に応じ協力歯科の受診対応となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化があった際には、ご家族様にご報告。また往診対応の方については、すぐに上申し適切な指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、病院の看護師や地域連携室のケースワーカーと連携を取り合い、退院に向けた担当者会議をおこなっている。 また随時管理者は面会に行き、状況確認をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化に関する指針を提示し、看取りに関する理解と協力をお願いしている。同法人内のグループホームへ看取りの見学をさせていただいたり、アドバイスをもらっている。	重度化に対する指針があり利用契約時に説明している。終末期に到った時には状況に合わせ医師を交え話し合いを行い、家族の意向を確認の上看取り同意書にサインを頂き、医療行為を必要としない場合に看取り支援に入ることになっている。開設以来看取りの経験は未だないが職員の知識向上、心構えの習得のため、系列のグループホームの看取りの際には勉強に出掛け終末期支援に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルと連絡網を作成し、緊急時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を年2回おこなっている。今年度は台風被害があったため、実際に向かいの有料老人ホーム「ことぶきの家」にご協力いただき非難した。身をもって実感することとなった。	6月と10月の年2回消防署の参加を頂き防災訓練を行っている。火災想定の消火訓練に合わせ通報訓練、利用者全員玄関や非常口より外へ移動しての避難訓練を行っている。年1回は夜間想定の避難訓練も実施している。地域との防災協定も結ばれ区長等の参加も頂いている。今年度は台風19号の被害を受け向かいの介護施設の2階へ避難しており、その体験を受け、水害想定の避難訓練の充実と備蓄内容の見直しも行い、災害対応への対策を見直す予定で現在進めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳やプライバシーを損ねないような声掛けや対応を心掛けている。 また各ユニットにおいて、問題を定義し皆で話し合いをおこなっている。	利用者に対する言葉遣いには特に気をつけ対応している。なんでもノートを用い気づいたことは何でも記入し、情報を共有し気持ち良く過ごして頂くよう心掛けている。入浴介助はそっと寄り添い、移動の際には気を遣い手を差し伸べるようにしている。呼び方は名前か苗字を「さん」付けでお呼びし、入室の際にはノックと声掛けを忘れないよう取り組んでいる。年1回プライバシー保護の内部研修を行い意識を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今の生活に満足していただいているか声をかけるようにしている。 また、10時や15時のおやつの時間にお好みのお茶やおやつのリクエストをお聞きしながらご要望にこたえている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご希望をお聞きしたり、ご様子からレクレーションへの参加など、その方のペースに応じた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でできるところまで整容していただき、あとは支援している。また、訪問理美容時には希望をお伝えできる状況にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずの盛り付けを一緒におこなったり、食器を並べる、テーブルを拭く、食器を洗うなどをしていただいている。行事等（食レク）にはお手伝いしていただいている。	殆どの利用者は自力で食事が出来、職員と共に会話を楽しみながら時間を過ごしている。献立は法人の栄養士が立てたものを使用し、昼食、夕食の副菜については法人の厨房より配達され、朝食については夜勤明けの職員が調理している。敬老会、夏祭り等家族参加の行事についてはお弁当、バーベキュー等で楽しい時間を過ごし、正月、節分等の年間行事についても季節に合わせた料理をお出しし味わっていただいている。また、利用者も参加し「おやき」「ニラ煎餅」「餃子」「ホットケーキ」等のおやつ作りも楽しんでいる。合わせて年2回は希望に合わせ「回転すし」等の外食にも出掛け、外の雰囲気も味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量をケアチック表に記載し把握している。利用者の量や食事形態を表にして張り出して、職員間で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所に移動していただき歯磨きをしていただいている。義歯をされている方については、汚れを落として、夕食後は義歯の洗浄をおこない、ケアしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケアチエック表にて排泄の間隔などを確認し、トイレ誘導をおこなっている。身体の状況にあわせ、検討をし、必要以上のおむつは使用しないよう努めている。また、ご家族様の負担にならないよう細目に発注し経費削減に努めている。	自立されている方は若干名、一部介助の方が全体の8割強、全介助の方が数名という状況で、全利用者トイレでの排泄対応が出来ている。ケアチェック表を用いパターンを掴み、一人ひとりの状況に合わせ声掛けを行い定時誘導を行っている。排便促進を図るべく牛乳の摂取とお腹マッサージを定期的に行っている。パットの使用状況の工夫と小まめにトイレ誘導を行うことで介護用品の費用削減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ケアチエック表にて排便の確認をしながらスタッフ同士共有し、飲食物の工夫やこまめなトイレ誘導、また介護士ができるマッサージなどをして、できるだけ自然排便を促している。今年度は菖蒲湯、ゆず湯の提供をし楽しんでいただけたようでした。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週に最低2回、曜日を決めて入浴していただいているが、体調や外出などある場合には個々にあった支援をしている。季節の入浴の提供をしている。今年度は菖蒲湯、ゆず湯の提供をした。	一部介助が全体の8割強、職員二名で介助する方が数名という状況である。入浴拒否の利用者もなく、週2回の入浴が出来ている。引き続き冬場は入浴剤を使っての足湯をホームで楽しみ、また、季節に応じ「ゆず湯」菖蒲湯」「リンゴ湯」等、季節のお風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし、生活のリズムを整え、安眠に繋がるようにしている。また24シートや申し送りを使い個々の睡眠時間の様子を把握するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のお薬情報をファイリングし、職員は随時確認できるようにしている。症状に変化があった場合には、直ぐに主治医に連絡をし、変化に対応できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を把握し、料理の得意な方には、野菜を切り、下ごしらえをしていただいている。　　また、お裁縫の得意な方には、他者のボタン付けなどをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食などに出掛けて、メニューの中からお好きな物を選んで召し上がっていただいている。 車でお花見や紅葉を見に行ったり気分転換をしている。	外出時、自力歩行の方と車イス使用の方がそれぞれ若干名ずつで、杖・手引き歩行の方が三分の二強という状況である。天気の良い日には毎日玄関先まで出てベンチで外気浴を楽しんだり周りの住宅街を近隣住民に挨拶しながら散歩している。合わせて広い館内を歩いて機能低下に努めている。年間の行事計画があり春のお花見から秋の紅葉見物まで季節に合わせた外出をドライブを兼ね行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金をお持ちの方にはご家族様にもご理解いただいたうえ、個人管理していただきスタッフも状況を把握している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持し、自由にお話しをされている。　また、希望される方には、電話をお繋ぐなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に応じた貼り絵などを展示し、季節感をあじわっていただいている。	広いスペースが確保された共用部分の天井が高く開放感が感じられる。そのような中、柔らかな笑みを浮かべゲームや歌を楽しみながらゆったりとすごしている利用者の姿が見られ微笑ましく感じられた。壁には避難訓練や行事の様子を写した写真や今年の生活目標を描いた絵馬や利用者の作品が飾られ、日々、穏やかに活動していることが窺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士の席を横にするなどし、気軽に話せるように配慮している。 また、廊下には椅子に腰掛けて、本を読むスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていた馴染みの物や愛用品を自由に置いていただいたり、写真を飾るなどしている。テレビなどもあり、くつろいで過ごしていただいている。	大きなクローゼットが完備され整理整頓が行き届いた居室は清潔感が漂っている。そのような中、利用者一人ひとりの生活の場が演出され使い慣れた家具、イス、テーブル、テレビ等が置かれ壁には家族の写真、誕生日のお祝い色紙等が飾られている。また、中には数多くの観葉植物が居室一杯に置かれている居室もあり、自由な生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にお名前を貼ったり、トイレの場所も貼ってあり、自由に行ける配慮をしている。		